GM 鶴牧-3 環の会

第 5 回クラシックを楽しむ会

2013 年 11 月 17 日（日）18:30～21:30

タイトル：**バレエ「白鳥の湖」（チャイコフスキー）**
会場等　：サンクトペテルブルク白夜祭
　　マリインスキー劇場バレエ団公演
　　（2006 年 5 月 29 日、6 月 1 日、2 日）
　　マリインスキー劇場
　　（ロシア、サンクトペテルブルク）
楽団等　：マリインスキー劇場バレエ団、同管弦楽団
指揮　　：ワレリー・ゲルギエフ
振付　　：マリウス・プティパ、レフ・イワノフ（1895 年）
出演　　：ウリヤーナ・ロパートキナ（白鳥オデット/黒鳥オディール）
　　ダニーラ・コルスンツェーフ（ジークフリート王子）

バレエ「白鳥の湖」あらすじ

白鳥にされたオデット姫とその呪いを解こうとするジークフリート王子の愛の物語。

みどころ聴きどころ

バレエのみどころ:性格が正反対の二役を一人のプリマが演じ分け！
清らかなヒロインの白鳥オデット役と、悪魔が自分の娘をオデットに似せてジークフリート王子を誘惑する黒鳥オディール役。
音楽の聴きどころ:見事なオーケストレーション！
第 1 幕第 2 場の「情景」は「白鳥」の主題。ハープの短い序奏のあとオーボエがソロで主旋律を吹く。チャイコフスキーは詩的で抒情的な物語を表現できるオーボエを主役に。優雅に湖面を滑る白鳥、この長いフレーズを 20 数秒一息で吹く。弦楽のトレモロで強弱を付けて流れに身を任せ、続けて勇壮なホルンさらに様々な楽器で盛り上げていく・・・。

サンクトペテルブルク白夜祭とその舞台

ロシア第 2 の都市、文化・藝術の一大中心地サンクトペテルブルク。
５月中頃から７月中頃まで繰り広げられる名物“白夜の星音楽祭”、通称白夜祭。コンサート、リサイタル、オペラやバレエなどが華やかに公演される。その中心はオペラとバレエ専用のマリインスキー劇場（1992 年まではキーロフ劇場と呼ばれていた）。中でもワレリー・ゲルギエフ※の公演は世界から注目。なお夏至の頃は音楽祭以外に“赤い帆”祭りなど様々な行事も開かれ 100 万人の観光客であふれる。※白夜祭は彼が創設。

第 6 回クラシックを楽しむ会（予告）

タイトル：「魔笛」（モーツァルト）
12 月 22 日（日）18 時開場、18 時 30 分上映開始
ザルツブルク音楽祭 2006、リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、同合唱団、ディアナ・ダムラウ、ルネ・パーペ他
　1 月以降ニューイヤー・コンサート 2014・・・お楽しみに

ウリヤーナ・ロパートキナ(1973-)

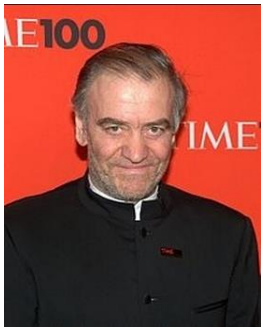
Prince Siegfried (Daniil Korsuntsev) guides Odette (Ulyana Lopatkina)

ウリヤーナ･ロパートキナは世界の至宝 究極の美とまで謳われるマリインスキー劇場バレエ団のプリンシパル。

1973 年ウクライナ、クリミア生まれ。建築家と結婚し、2002 年娘の誕生後は趣味の絵描きと読書が犠牲に。朝食は通常グレープフルーツ・ジュースか紅茶。昼食はしばしば抜く。公演後は葡萄 1Kg かグレープフルーツ・ジュース 1L。(夕食は？)

2012 年 11 月､3 年ぶりマリインスキー劇場バレエ団日本公演にジークフリート役ダニーラ・コルスンツェーフと来日。

ワレリー・ゲルギエフ（1953-）



レニングラード音楽院在学中にカラヤン指揮者コンクール 2 位、全ソ指揮者コンクール 1 位。ロシアの古典オペラに新たな演出法を導入。また多くの新人歌手(アンナ・ネトレプコなど）を発掘。マリインスキー劇場を世界的な地位に引き上げ、現在劇場の総責任者。国際的指揮者としてウィーンフィル等世界一流オーケストラを率いてたびたび来日。日本の各主要オーケストラも指揮。コンサート等を通じて平和のための活発な活動､発言を続けている。

バレエ「白鳥の湖」誕生の経緯

1875 年、チャイコフスキーはモスクワのボリショイ劇場からバレエ音楽の作曲を依頼される。原案は作曲者自身がドイツの童話などを参考に作成。台本は同劇場支配人と総監督が共同執筆。完成させた自筆スコアには簡単なト書きのみ。音楽が何を表現しているか、後のさまざまな解釈を可能にした。初演は 1877 年ボリショイ劇場。6 年間に 40 回ほど上演後一時忘れられる。

1895 年、チャイコフスキーの死後、彼の弟モデストの改定台本、マリインスキー劇場のプティパとその弟子イヴァノフの振付による改訂版初公演（蘇演）は圧倒的な支持を得る。現在上演されるほとんどの演出、振付はこの改定版に基づく。

チャイコフスキーはそれまでのバレエに合わせて伴奏する音楽ではなく、芸術性の高い音楽を目指した。このため初演当時の演出家、踊り手には理解できず戸惑った。

当時のバレエ､プティパとその弟子イワノフの功績について

フランス革命後宮廷から劇場に移ったバレエはパリ・オペラ座を中心にオペラの一部に変化してドラマ主体の**ロマンチック･バレエ**と呼ばれる。女性の職業ダンサーが登場し、オペラ座定期会員のドガは特権的に舞台裏の練習場、楽屋に出入りして彼女達を描き多くの名作を残した。

フランス人振付家、プティパはロシアのマリンスキー劇場に招かれてチャイコフスキー「眠れる森の美女」を振り付けて 1890 年に大成功。続けて「くるみ割り人形」､「白鳥の湖」を振り付け、3 大バレエと称されている。物語と無関係なダンス・シーンに複雑な技法を用いて様式化、バレエの構成を完成させた。それまでの歴史を変え芸術としての**クラシック･バレエ**の礎を築いた。

ピョートル・チャイコフスキー（1840-1893）

田舎の幼少時代、文学的、音楽的才能が芽生える。10 歳で帝都サンクトペテルブルクの法律学校に入学、イタリアオペラ等に触れ音楽に対する情熱が熟成される。卒業後法務省に入省、キャリア組として最後は課長（1867 年、陸軍中佐相当）まで勤める。本職在職中の 1862 年、アントン・ルビンシテイン設立のサンクトペテルブルク音楽院に入学、1865 年優秀な成績で卒業。写真は 1863 年 23 歳、法務省課長＝音楽院学生である。

あらすじ

【時と場所】

1877 年の初演台本ではドイツでの出来事、1895 年の蘇演台本ではおとぎ話時代のドイツとなっている。

【登場人物】

白鳥オデット／黒鳥オディール（一人二役）
ジークフリート王子
悪魔ロットバルト（フクロウの姿）
ほかに王妃、家庭教師ウォルフガング、友人ベンノ、道化

【第 1 幕第 1 場】王宮の大庭園

成年を迎えたジークフリート王子の祝宴が盛大に開かれている。母の王妃が入って来て「明日の舞踏会に招いた姫君たちの中から花嫁を選ぶように」と告げる。しかし王子は自由な子供時代が終わるのを悲しみ物思いにふける。夕暮れになり白鳥の群れが飛ぶのをみた王子は白鳥を捕まえたいとの衝動に駆られて森の中に入る。

情景（幕が上がる）
ワルツ（コール・ド・バレエ）
パ・ド・トロワ、～ドゥ
パ・ダクション（酔った家庭教師）、乾杯の踊り、終曲

【第 1 幕第 2 場】真夜中の森の湖のほとり

夜が更け王子達は白鳥を追いかけて湖のほとりに着く。白鳥の群れに矢を向けると白鳥は突然若い娘に姿を変える。

その中にひときわ美しいオデット姫。悪魔ロットバルトの魔法にかけられたオデットが人間の姿に戻れるのは永遠の愛を約束された時だけ。強く惹かれた王子はオデットに永遠の愛を誓い結婚を決心する。オデットから愛の証しの白い羽を受けとる。夜明けが近づき悪魔ロットバルトが現れると白鳥たちは姿を消す。

情景（最も有名）
白鳥たちの踊り
四羽の白鳥の踊り（有名）
パ･ダクション（オデットと王子の愛のデュエット、最大の見せ場の一つ）

【第 2 幕】王宮の舞踏会

王子の花嫁を選ぶ舞踏会が行われている。王子は落ち着かず招かれた花嫁候補にも興味がわかない。頭にあるのは昨日会った美しいオデットのことだけ。そこへ悪魔ロットバルトと娘のオディールが各国の踊り子たちを引き連れて入ってくる。ロットバルトは貴族になりすまし娘オディールをオデットに見せかける。王子は彼女をオデットだと思い込みオデットから貰った愛の誓いの白い羽をオディールに渡し母親に花嫁として紹介する。悪魔ロットバルトはたくらみが成功、王子はだまされたことを悟って絶望する。

コール・ド・バレエと一寸法師の踊り（道化が踊る）
パ・ド・シス
パ・ド・ドゥ
ハンガリーの踊り（チャルダッシュ）
ロシアの踊り
スペインの踊り

【第 3 幕】真夜中の森の湖のほとり

王子はオデットの許しを求めて湖にやって来る。オデットは永久に白鳥のままでいなくてはならない。現れたロットバルトが激しい嵐を引き起こす。王子はロットバルトに戦いを挑みかかるが逆に湖の底に引き込まれそうになる。二人の強い愛がロットバルトの魔法に打ち勝つ。嵐は去り湖にはいつもの静けさが戻り、オデットは人間の姿に戻っていた。二人は永遠の愛を確かめ合う。

間奏曲
小さな白鳥たちの踊り
情景（悪魔と嵐）
情景･終曲（バレエ全体のクライマックス）

※1.初演、蘇演は全 4 幕。本公演では第 1、2 幕がそれぞれ第 1 幕第 1 場、第 2 場の全 3 幕。
※2. バレエ用語

パ･ド･ドゥ：男女二人の踊り、グラン・パ・ド・ドゥは二人の華やかな一連の踊り。パ・ド・に続けてトロワ、カトル、シスはそれぞれ三人、四人、六人の踊り。**パ･ダクション**：物語のある演技の踊り。**コール･ド･バレエ**：群舞、主役が踊っているときは両脇に控えている。